

## 4年生 総合的な学習「アイマスク体験」「高齢者擬似体験」

令和2年12月

総合的な学習の時間「だれもがいっしょにくらせる社会」の一環として、1学期に学んだユニバーサルデザインに続き、2学期は、障がいのある方々の気持ちに寄り添うために擬似体験をする授業を行いました。

初めに、視覚障害者の気持ちを考えるためアイマスクを付け、日常生活の中での動作を体験しました。アイマスクをして、目の見えない状態で自分の名前を書いたり、くつを履き替えたり、各自で体験した後、ペアワークを行い、声のみでの案内で移動し、手を洗ったり、水を飲んだり、視覚障害者の日常を体験しました。

次に、高齢の方の立場に立つために、テープを貼って見えにくくしたゴーグルを付けたり、軍手を二重にはめて物をつかみ、想像だけでは分かりづらい大変さを実感しました。

まとめとして、「盲導犬ってどんな生活しているんだろう」や「手話はどのくらいあるのかな」などと疑問に思ったことを調べ、それぞれの感想を発表し合いました。「思っていたより大変だった。」「障がいのある人に会ったら、助けたい。」などの意見が出ました。その後、各自で新聞にまとめ、廊下に掲示し、お互いの感想を共有しました。



アイマスクをして廊下を歩く様子



アイマスクをつけてランドセルをしまう様子



アイマスクをして水を飲む様子



軍手をつけておはじきをつかむ様子



ゴーグルをつけてお箸を使う様子



教室や廊下に掲示をした福祉新聞